

オイコス米作りの一年

苗を育てるのは大変手間暇のかかる作業です。その苗を作ってくれていたのは豊田さん（故人）でした。

温度、水、消毒等の管理もさらに大変。農業をやっている人なら解るはず。さて、稲の生育から収穫、餅つきまでをみると、田起し、代掻き、そして田植え5月17日植え終わってから水を守る。これは大変な作業。この田んぼは水はけが良く、一晩で水がなくなるので水遣りにはとても気を使っています。

次は雑草取り。6月4日、8月5日と2回行い、この間肥料をやり、9月8日に脱穀及び稲掛け。竹が倒れるので注意を要します。

次に精米。12月16日1時から餅つき準備。大忙しで道具をそろえる。かまど、蒸籠、蓋、木綿布、水くみ、杵、臼、バケツ、ボール。この日に餅米を研いでおきます。

12月17日、JA交流センターでオイコス主催の餅つき会を開催。朝早く集合。

餅米約60kgを杵臼と餅っこで前日研いでおいた米を使って26臼つきました。一番、二番、三番目までの餅は、つきたてを、餡子、黄粉、海苔、納豆とワイワイ言いながら参加者全員でいただきました。そして参加した全家族にのし餅と丸餅を配りました。

最後になりますが、JA交流センターのご協力に感謝します。また、米づくりに関わられた皆さん、ご苦労様でした。（近藤）



▲7月1日梅雨の中 草取り



▲9月24日 子どもたちも稲刈り



▲稲刈りを終え、ハザカケの準備



▲10月8日 脱穀



▲子どもたちも餅つきにチャレンジ！



餅つき会

去る12月17日、息子と2人で「餅つき会」に参加させていただきました。

田起こしに始まり、田植え、除草、稲刈りと、年間を通した米作り体験の締めくくりとなるイベントです。当日は天候にも恵まれ、心地よい陽気の中で楽しい時間を過ごせました。

特につきたてのお餅の味は格別で、小学3年生の息子も大喜びでした。

昔ながらの杵や臼を使うこともそうですが、自ら植え、収穫したお米で餅をつくことは、大変意義深く、非常に貴重な経験であったと思います。

親子共に、米作りを通して楽しい体験をさせていただきました。企画、運営頂いたオイコスの皆様、本当にありがとうございました。

（加納）



▲子どもたちががんばります！



▲余ったおもちを使って丸餅づくりの講習会

「サポートセンター祭り」に参加

このフェスティバルは平成29年11月12日（日）フルルガーデン八千代 噴水広場において行われました。当日は10月並みの暖かい日となり市民活動23団体に交わり参加しました。

オイコス会員10名はブースに活動紹介パネル、秋のエコウォーキングのチラシ、かわら版の他花輪川でとれた銀杏、竹酢液、会員自家製の野菜などを用意しました。

写真をふんだんに使った「川の学校」「花輪川の保全作業」を中心に説明。オイコスの活動に興味を持って頂く良い機会となりました。

ステージでは軽音楽、フラダンス、吹奏楽などが順次行われフェスティバルに花を添え楽しい一日でした。

参加者は昨年並みの4,500人でした。私達も他の団体の展示や説明など学ぶことも多々あり、今後の参考にしてゆきたいと思っています。（島）



花輪川「冬の花壇パンジー賑やかに」

11月10日（金）緑化公社に申し込んであったパンジー苗700株を、3人で受け取り、仲間が待つ花輪川へ車で運びました。

花壇には6月中旬に植えて夏の花壇を彩ってくれたサルビアがまだ少し花が残っていましたが、これらを抜き、そのあとを整地しながら5人で5列に植えていきました。花壇の土は砂利が多く、水はけはいいものの、小さな苗には向きません。しかし、パンジーはスマレの一種で強いので、冬の殺風景な花壇には適しています。きっと、紫のパンジーは冬の道を散歩する人たちの心を和ませてくれると思います。

正月、散歩の帰りにパンジーの様子を見てきました。周りは霜柱がいっぱい立っていましたが、パンジーは元気で安心しました。（新谷）



ボーイスカウトの子ども達と活動して

日本ボーイスカウト八千代第2団の子ども達と、オイコスが共催活動を始めたのが2016年9月でした。ボーイスカウトのメイン活動でもある「スカウトデイ」で、このあと2017年には、6月「ザリガニ釣り」9月「スカウトデイ」の2度の活動を共にしました。

日本ボーイスカウトの歴史は古く、1972年（昭和47年）には創立50周年パレードが銀座で実施されたとの事ですから、100年の歴史を迎えるのもそう遠くは無いですね。

創立の理念は「ボーイスカウトの運動を通して青少年の優れた人格を形成し、かつ国際友愛精神の増進を図る事を目的とする」とあります。

共催活動の折、子ども達が集合し指導者の号令で整列する幼い子供たちを見ると、思わず微笑ましく見守ってしまいます。家庭や学校の場と違うグラウンドで団体行動を学ぶ姿に、川の学校を「地域教育の場」と指向するオイコスと併せ共に向上を図りたい思いを強くするものです。（川瀬）